

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	19人	算数	19人	理科	19人
第5学年	国語	18人	算数	18人	理科	18人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

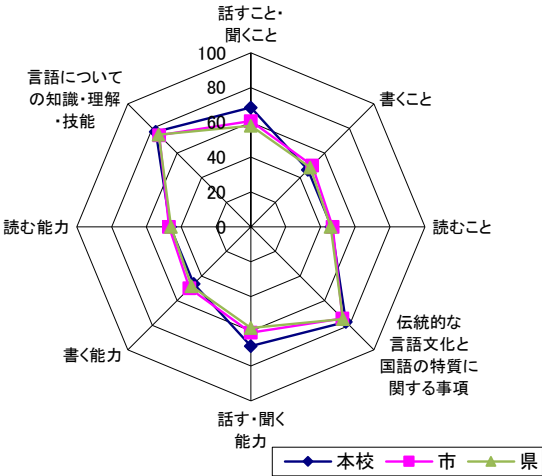
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原北小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	68.6	60.8	58.1
	書くこと	46.3	49.8	48.3
	読むこと	46.3	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.2	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	68.5	60.8	58.1
	書く能力	46.3	49.8	48.3
	読む能力	46.3	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	77.2	74.4	74.8



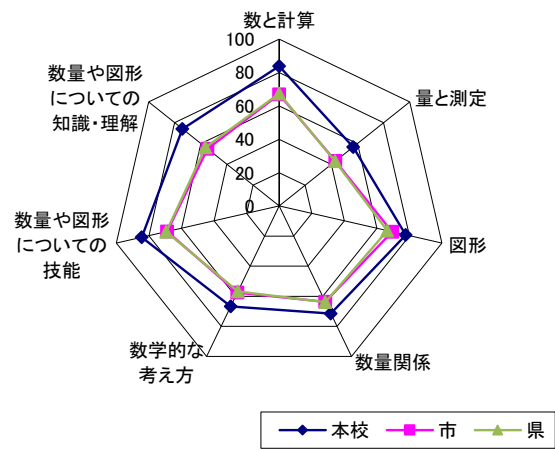
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市・県の平均にくらべて高い。 ○意見の共通点を理解しながら聞くことができています。 ○話し合いにおいて司会者の役割を理解して進行することが苦手な児童が見られる。 ●話し合いにおける考えの共通点や相違点を整理して話すことは苦手な児童が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・学級会などの話し合い活動を通して、提案者や司会者の役割を確認するとともに、引き続き理由を挙げながら意見を述べたり話の中心に注意して聞いたりするよう指導する。
書くこと	平均正答率は、市・県の平均に比べて低い。 ○掲示物の内容文にふさわしい資料を選ぶことができた。 ●資料を基に前後の文に合うように正しい選択肢を選ぶことができない児童が多い。 ●必要な条件を選んで決められた字数の中で書くことが苦手な児童が見られる。	・まとめを書くことに抵抗を感じている児童が多い。意図的に筆者の考えを短い文でまとめたり感想をまとめて書いたりする機会を設けることにより書くことへの抵抗感を減らしていく。 ・字数を意識して書かせる場を設ける。
読むこと	平均正答率は、県の平均は上回ったが、市の平均にくらべてやや低い。 ○文章の要点や細かい点に気を付けて読むことができた。 ○物語を読み、叙述を基にして特徴的な描写を捉えることができた。 ●登場人物の気持ちを想像して読んだり、描写から心情を想像することができている。	・読み取りに関しては、正答率が低かった。登場人物の気持ちを理解させたり、描写から心情を考えながら内容を読み取らせていきたい。 ・おおまかな文章は理解できているが、一つ一つの言葉が示している内容に気付けなかったり把握できなかったりする児童がいるので、授業の中で確認しながら読み取る習慣をつけさせたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市・県とくらべて高い。 ○漢字の読みや漢字辞典の使い方、ローマ字の読み方について理解することができている。 ●漢字の書き取りや慣用句の使い方の理解が十分でない児童が多い。	・学年の漢字だけでなく、既習学年の漢字についても復習する機会を設けていく。また、国語科の授業を中心に慣用句についても取り上げ、スパイラル的に指導し定着を図る。

宇都宮市立清原北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	83.8	66.9	67.4
	量と測定	56.7	43.2	43.0
	図形	77.8	69.4	66.5
	数量関係	71.5	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	66.7	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	84.4	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	74.1	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

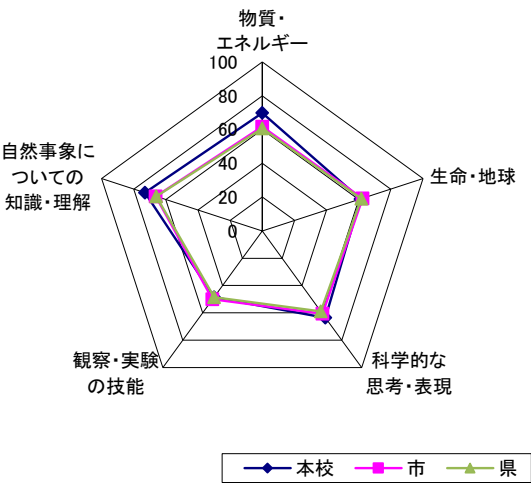
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市・県に比べると高い。 ○整数や小数のかけ算、倍の計算について理解している児童が多い。 ●小数のしくみが苦手な児童が多くみられる。	・小数のしくみなどの既習事項の復習をしっかりと行う。 ・小数のわり算の中でも、あまりの処理の仕方を丁寧に扱う。
量と測定	平均正答率は、市・県に比べると高い。 ○はがきのおよその面積を推測することができる児童が多い。 ●式に合った複合図形の面積の求め方を文章で説明することができない児童が多い。	・立式するだけでなく、自分の考えを相手に分かるように説明する力をつけるために、自分の考えを文章や図を使って表現する場を設定する。
図形	平均正答率は、市・県とくらべるとやや高い。 ○与えられた2辺の続きを書いて、平行四辺形を作図することができる児童が多い。 ○平面上にあるものの位置を表すことができる。	・今後も継続して、作図など実際に描かせながら図形についての概念を習得させる。
数量関係	平均正答率は、市・県とくらべると高い。 ○二次元表の欄に当てはまる数を求めることができる。 ○規則性を理解し、式に表すことができる児童が多い。 ●グラフを読み取って述べている意見の間違った部分を見つけ出すことができない児童が多い。	・縦軸が2項目ある場合のグラフの読みとりの仕方に慣れさせるなど、グラフの読み取りを継続して指導する。 ・自分の考えだけでなく、友達の考えについても説明できるよう学習形態を工夫し、互いに説明したり質問したりして、より深い理解を促したい。

宇都宮市立清原北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	69.8	61.7	60.7
	生命・地球	61.1	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	63.6	60.6	58.9
	観察・実験の技能	48.6	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	73.0	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市・県とくらべると高い。 ○湯気と水中から出てくる泡の正体や水から氷になるときの体積変化について理解している児童が多い。 ○金属が温められるとどうなるか、金属の温まり方など金属の性質について理解している児童が多い。 ●自分たちの予想が正しいかどうかを確かめる実験計画を立てることができない児童が多い。 ●乾電池の回路図、つなぎ方と時間の関係を正しく選ぶことができない児童が多い。	・直列つなぎ、並列つなぎの特徴を復習する機会を設ける。 ・実験の結果だけでなく、なぜそうなるかなど科学的に思考する力が弱い。引き続き実験に際し、結果を予想したり、実験後に結果をもとに考察したりする時間を設ける。
生命・地球	平均正答率は、市とくらべるとやや低い。 ○星座の動きを捉えるために適切な記録方法が分かる児童が多い。 ○生き物の一年間については理解できている児童が多かった。 ●方位磁針の適切な操作方法ができていない児童が見られる。 ●人の体のつくりの筋肉の様子について理解できていない児童が多かった。	・さまざまな実験・観察において、操作や体験を通して基礎的な知識を身に付けたり、練習問題などで定着を図ったりする。 ・筋肉の様子について復習する機会を設ける。

宇都宮市立清原北小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○早寝早起き朝ごはんの生活習慣が身に付いている児童が多い。

○グループなどの話し合いに自分から進んで参加したり、自分の考えを発表する機会が与えられたりしている。

○全員が学校の決まりを守っており、学級活動の時間に話し合っクラスの決まりなどを決めている。

●学校の授業の復習やテストで間違えた問題について勉強はしているが、予習をする習慣は十分身に付いていない。個に応じて計画的に家庭学習をするよう声掛けをする。

●難しい問題にであうとよりやる気が出る、疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたいと考える児童が少ない。できそうな問題から取り組ませ、達成感を味わわせることで難易度の高い問題に対しても取り組もうとする意欲を高める。

●授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しいと考えている児童が多い。文章を書くときにキーワードとなる言葉を提示することで文章を書く補助とする。

宇都宮市立清原北小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ねらいの提示と学習の振り返りを徹底した授業づくり	・日々の授業を大切に、ねらいの提示と振り返り活動を行っている。	・県・市の平均よりも高く、ねらいについては100%の児童が肯定的回答だった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
【子どもの学び意欲・学習習慣】 ・記述式の問題の無回答が多い。 複数の資料をもとに自分の考えを書くことが苦手な傾向にある。 ・既習事項を忘れてしまっている。	・要点をまとめる活動 ・スパイラルによる学習	・中学年から要旨をまとめるなどの活用を意識して取り入れたり、時数制限や短い言葉で要点をまとめるなどの機会を作っていく。 ・単元によって習熟度学習を取り入れる。レディネステストにおいて定着が十分でないときは、既習事項の復習を行う。
【教師の指導力】 ・		
【保護者の理解・協力】 ・		